

集中治療部

1 構 成 員

	平成 28 年 3 月 31 日現在	
教授	0 人	
病院教授	0 人	
准教授	0 人	
病院准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
病院講師	0 人	
助教（うち病院籍）	2 人	(2 人)
診療助教	3 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	1 人	
医員	2 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	0 人	
合計	8 人	

2 教員の異動状況

土井 松幸（特任准教授）（H24. 2. 1～現職）
小幡由佳子（助教）（H23. 4. 1 ～現職）
川島 信吾（助教）（H27. 1. 1 ～H27.6.30）
加藤 弘美（助教）（H27. 7. 1 ～現職）
加藤 弘美（診療助教）（H26. 2. 1 ～H27.6.30）
大橋 雅彦（診療助教）（H27. 8. 1 ～現職）
植田 広（診療助教）（H25. 11. 1 ～H27.6.30）
鈴木 祐二（診療助教）（H27. 7. 1 ～現職）
八木原 正浩（診療助教）（H27. 5. 1 ～H27.10.31）
林 美彌子（診療助教）（H27. 11. 1 ～H28.2.28）
西本 久子（診療助教）（H28. 3. 1 ～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 27 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	2 編	(1 編)
そのインパクトファクターの合計	2.39	

(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数 (うち邦文のもの)	2 編	(2 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数 (うち邦文のもの)	1 編	(1 編)
(5) 症例報告数 (うち邦文のもの)	4 編	(4 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Kawashima S, Suzuki Y, Sato T, Kikura M, Katoh T, Sato S. Four-Group Classification Based on Fibrinogen Level and Fibrin Polymerization Associated With Postoperative Bleeding in Cardiac Surgery. Clin Appl Thromb Hemost. Doi: 10.1177/1076029615597061, 2015. (2.392)

インパクトファクターの小計 [2.392]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 佐藤恒久, 川島信吾, 鈴木祐二, 木倉睦人, 高德和宏, 平間大介, 西尾博臣, 青木隆之, 西澤純一郎, 加藤孝澄, 佐藤重仁: 心臓手術の人工心肺復温時のトロンボエラストメトリー (ROTEM®), フィブリノゲン濃度, 血小板数と輸血量, 術後出血量との関連性についての検討. Cardiovascular Anesthesia, 19, 49-54, 2015(0)

インパクトファクターの小計 [0]

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 加藤弘美, 土井松幸: ICU におけるせん妄. 臨床麻酔 39: 1636-1644, 2015 (0)

インパクトファクターの小計 [0]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. 成瀬 智, 御室総一郎, 加藤弘美, 水野香織, 小幡由佳子, 土井松幸, 佐藤重仁: 急性大予定大血管手術後の尿中尿素窒素排泄量と血中 CRP 値の関係性. 日本集中治療医学会誌 22: 265-6, 2015 (0)

インパクトファクターの小計 [0]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(4) 著 書

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの
1. 木倉睦人, 佐藤恒久, 川島信吾, 鈴木祐二: 凝固機能維持(2) 心臓血管手術における血液製剤の可能性. 麻酔科医・集中治療医に必要な血液凝固, 抗凝固, 線溶系が分かる本 改訂第2版, 250-253, 2015

(5) 症例報告

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. 加藤弘美, 永田洋一, 高木佑美紀, 秋永泰嗣, 高田和典, 佐藤重仁. 単冠動脈症患者の部分弓部大動脈人工血管置換術および大動脈弁置換術の麻酔経験 日本臨床麻酔学会誌 35: 434-438, 2015 (0)
 2. 加藤弘美, 御室総一郎, 川島信吾, 小幡由佳子, 土井松幸, 佐藤重仁: 肺塞栓症を合併したインフルエンザ B 型感染症に対し非侵襲的陽圧換気で管理しえた一症例. 日本蘇生学会誌 34: 113-7, 2015 (0)
 3. 佐藤徳子, 秋永智永子, 菊池 卓, 伊東宏晃, 土井松幸, 金山尚裕, 佐藤重仁: 産後大量出血に対する子宮圧迫縫合法 (B-Lynch 法) の周術期管理: DIC 発症と関連. 麻酔 65: 62-66. 2016 (0)

インパクトファクターの小計 [0]

- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
1. 水野香織, 成瀬 智, 小林 充, 御室総一郎, 小幡由佳子, 土井松幸, 佐藤重仁: 急性大動脈解離の保存的治療におけるデクスメデトミジンの使用経験. 日本集中治療医学会誌 22: 253-6, 2015 (0)

インパクトファクターの小計 [0]

- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

4 特許等の出願状況

	平成 27 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

5 医学研究費取得状況

（万円未満四捨五入）

	平成 27 年度
（1）科学研究費助成事業（文部科学省、日本学術振興会）	1 件 （130 万円）
（2）厚生労働科学研究費	0 件 （0 万円）

(3) 日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成	0 件	(0 万円)
(4) 科学技術振興機構(JST) による研究助成	0 件	(0 万円)
(5) 他政府機関による研究助成	0 件	(0 万円)
(6) 財団助成金	0 件	(0 万円)
(7) 受託研究または共同研究	0 件	(0 万円)
(8) 奨学寄附金	1 件	(50 万円)

(1) 科学研究費助成事業 (文部科学省、日本学術振興会)

小幡由佳子：科学研究助成事業、学術研究助成事業助成金、基盤研究C：低酸素再酸素化ストレスが血管内皮機能に及ぼす影響 3年間 総額455万円

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	0 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	1 件
(3) 学会座長回数	0 件	7 件
(4) 学会開催回数	0 件	0 件
(5) 学会役員等回数	0 件	5 件
(6) 一般演題発表数	4 件	

(1) 国際学会等開催・参加

- 1) 国際学会・会議等の開催
- 2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演
- 3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表
- 4) 国際学会・会議等での座長
- 5) 一般発表

口頭発表

1. Doi M, Morita K, Shiraishi Y, Katoh T, Kurita T, Igarashi H, Sato S. Remimazolam Dose Finding Studies for Anesthetic/Sedative in the Indication General Anesthesia in Japanese Volunteers/Patients. Annual meeting of American Society of Anesthesiologists. October 26, 2015 San Diego, USA
2. Sato S, Doi M, Morita K, Takeda J, Sakamoto A, Yamakage M, Suzuki T. Remimazolam a New Ultra-Short Acting Anesthetic Shows Similar Efficacy and Superior Hemodynamic Stability vs. Propofol in General Surgery Patients With TIVA: Results of a Randomised, Non-Inferiority, Phase IIb/III Trial. Annual meeting of American Society of Anesthesiologists. October 28, 2015 San Diego, USA

ポスター発表

1. KATO H. An evaluation of deep-forehead temperature in ICU patients after cardiac surgery, ESICM, 2015 October Berlin (Germany)
2. Yagihara M, Uemura A, Miyabe M. Remifentanyl suppressed surgical and anesthetic stress reaction during general anesthesia combined with epidural anesthesia in pediatric patients. Annual meeting of

(2) 国内学会の開催・参加

- 1) 主催した学会名
- 2) 学会における特別講演・招待講演
- 3) シンポジウム発表

川島信吾, 鈴木祐二, 佐藤恒久, 入江直, 木倉睦人, 中島芳樹. 人工心肺による血液希釈と凝固線溶系の変化—フジサン分類による適正輸血への取り組み—. 日本心臓血管麻酔学会第20回学術集会. 9月9日2015年 福岡.

4) 座長をした学会名

1. 土井松幸：第23回日本集中治療医学会東海北陸地方会 6月20日, 2015年
2. 土井松幸：日本麻酔科学会東海・北陸支部第13回学術集会 9月5日, 2015年
3. 土井松幸：日本臨床麻酔学会第35回大会（一般演題）10月21日, 2015年
4. 土井松幸：日本臨床麻酔学会第35回大会（教育講演）10月21日, 2015年
5. 土井松幸：日本蘇生学会第34回大会（一般演題）11月5日, 2015年
6. 土井松幸：第43回日本集中治療医学会学術集会（教育講演）2月12日, 2016年
7. 土井松幸：第43回日本集中治療医学会学術集会（一般演題）2月13日, 2016年

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

土井松幸：日本集中治療医学会 評議員, 将来計画委員会委員, 個人情報・利益相反検討委員会, 社会保険対策委員会委員

土井松幸：日本蘇生学会 評議員

土井松幸：日本臨床麻酔学会 評議員

土井松幸：日本麻酔科学会 代議員

土井松幸：日本麻酔集中治療テクノロジー学会：評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国 内	外 国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0 件	0 件

(1) 国内の英文雑誌等の編集

(2) 外国の学術雑誌の編集

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

土井松幸：2回 Journal of Anesthesia 日本

土井松幸：2回 Journal of Intensive Care 日本

9 共同研究の実施状況

	平成27年度
(1) 国際共同研究	0 件

(2) 国内共同研究	1 件
(3) 学内共同研究	0 件

(2) 国内共同研究

1. 集中治療室における蛋白質投与量に関する多施設観察緩急、高知大学医学部麻酔科学・集中治療医学講座、2015 年 5 月～9 月、観察研究、現在統計解析中

10 産学共同研究

	平成 27 年度
産学共同研究	0 件

11 受賞

(1) 国際的な授賞

(2) 外国からの授与

(3) 国内での授賞

1. 優秀演題賞: 加藤弘美, 川島信吾, 御室総一郎, 小幡由佳子, 土井 松幸. 心臓手術後患者における深部前頭温 (Tdf) の評価. 第 23 回日本集中治療医学会東海北陸地方会 6 月 20 日, 2015 年
2. 優秀演題賞: 秋永泰嗣, 御室総一郎, 植田広, 小林賢輔, 加藤弘美, 川島信吾, 小幡由佳子, 土井松幸, 佐藤 重仁. 急性メタノール中毒の 1 例. 第 23 回日本集中治療医学会東海北陸地方会 6 月 20 日, 2015 年

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 光ファイバーカテーテルを利用した血液ブドウ糖濃度の連続測定法の開発

ブドウ糖検出センサー素材を検索する基礎情報を得るために以下の研究を実施した。ブドウ糖検出センサーとしてのアントラセン-フェニルボロン酸化合物の特性を検討した。ブドウ糖と反応した際の蛍光特性、蛍光強度の濃度依存性、蛍光強度の時間的安定性についてデータを収集した。臨床的な血漿ブドウ糖濃度である 400mg/dl までのブドウ糖を添加した際の蛍光特性を調べたところアントラセン-フェニルボロン酸化合物はブドウ糖存在下で 370 nm の励起光にて 430 nm にピークを持つ蛍光を発生させ、その蛍光強度はブドウ糖濃度依存性であった。連続測定 12 時間までは蛍光強度は初期値の 90%程度を維持したが、その後蛍光強度は徐々に減衰することが観察された。アントラセン-フェニルボロン酸化合物は、ブドウ糖検出センサーとして利用可能であるが、経時的安定性を向上させるための工夫が必要であるとの結果を得た。

ブドウ糖検出センサーの検索に平行して、光ファイバーカテーテルのデザインの検討を継続して実施した。ブドウ糖検出センサー装着光ファイバー内蔵カテーテルの設計を再検討した。光ファイバーカテーテルの先端の形状とセンサーの装着方法のデザインを修正した。また励起光を送る入光ファイバーと蛍光を伝達する受光ファイバーの配置もあわせて検討し候補となる配列を追加した。入光ファイバーと光源、受光ファイバーと蛍光検出器との接続部である光カプラの形状も再度検討した。

13 この期間中の特筆すべき業績、新技術の開発

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

1. 光テクノロジーを用いた血中微量物質定量法の研究成果を基礎にして，ブドウ糖濃度測定法の開発を継続して行っている。

15 新聞，雑誌等による報道

1. 鈴木祐二：ラジオ K-MIX「SUZUKI マスタートーク」 出演，12月18日2015年